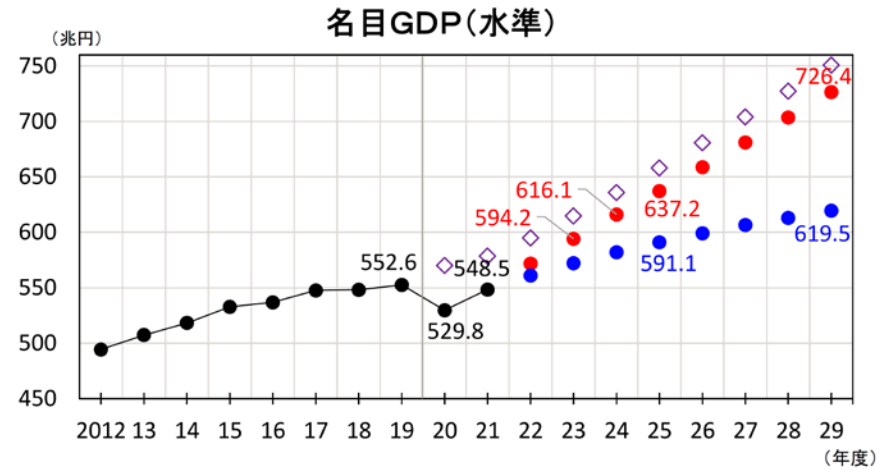
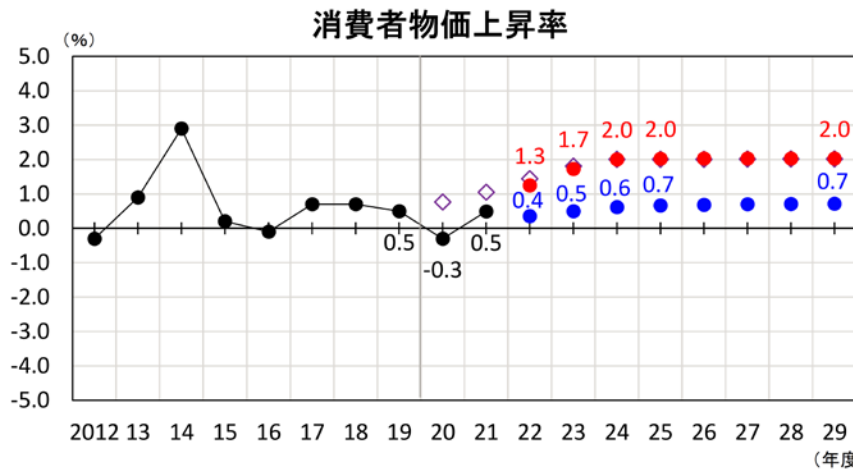
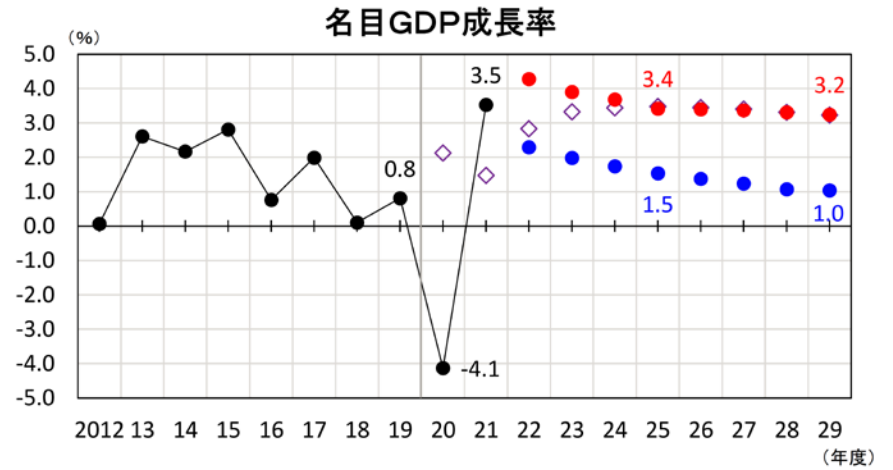
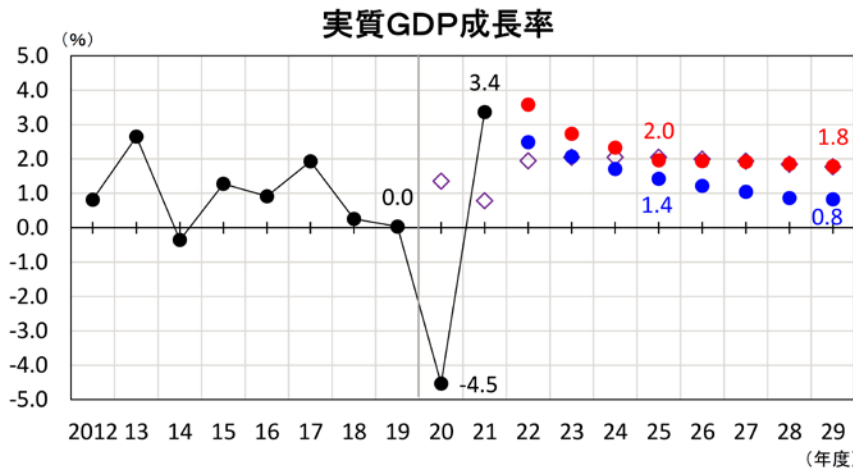


中長期的なマクロ経済の姿

成長実現ケースでは、GDP成長率は、感染症の影響による需要不足が解消する過程で伸びが高まるが、中長期的にも、骨太方針2020の実行により生産性が着実に上昇することで、実質2%程度、名目3%程度を上回る成長率を実現。名目GDP600兆円の達成時期は、感染症の経済への影響を見極める必要があるが、2023年度頃となる見込み。できるだけ早く日本経済を正常な軌道に復帰させるとともに、「新たな日常」を通じた「質」の高い経済社会を実現することがデフレ脱却と経済再生のために不可欠。



● 成長実現ケース ● ベースラインケース ◇ 本年1月成長実現ケース

(注) 2020年秋に海外で感染症の大規模な第二波が生じるという国際機関のシナリオを基に試算された内閣府年次試算の参考値を踏まえると、成長実現ケースにおける名目GDP600兆円達成の時期は2024年度頃となる見込み。